



2学期が始まりました

夏休みが終わり、教室や校庭から子供たちの元気な声が聞こえるようになりました。今年の夏休みも猛暑日の連続で保護者の皆様も子供たちの体調管理が大変だったことと思います。お陰様で、夏休み期間中に大きな事故や怪我などの報告はありませんでした。保護者の皆様、地域の皆様、子供たちをあたたく見守ってくださりありがとうございました。

2学期は様々な行事や活動を計画しています。子供たちにとって実りのある学期となりますよう、引き続き、本校の教育活動にご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

学校保健委員会

8月19日（火）に学校保健委員会を開催しました。保護者の皆様と一緒に子供の発達段階や愛着形成、カウンセリングマインドについて学びました。

子は親の鏡 ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる
 とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
 不安げな気持ちでいると、子どもも不安になる
 「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
 子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
 広い心で接すれば、キレる子にはならない
 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
 分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
 親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
 子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
 やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
 和気あいあいとした家庭で育てば、
 子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



学校保健委員会で紹介されたアメリカの教育学者であるドロシー・ロー・ノルト博士の詩になります。親だけではなく、周りの大人たちが子供たちの良き手本となるように、心がけていくことが大切だと思います。「児童は教員の鏡」という言葉を心にとめて、教職員一同力を合わせ、教育活動を進めてまいります。